

## 近事研 サマーフォーラム報告

### 「ワーク・ライフバランスと実現法」

株式会社 ワーク・ライフバランス  
コンサルタント 風間 正彦 様



平成25年8月20日、京都タワーホテルにおいて近事研サマーフォーラムを開催しました。「ワーク・ライフバランスと実現法」というテーマで、株式会社ワーク・ライフバランスのコンサルタント 風間 正彦 様にご講演いただきました。

最初に、ワーク・ライフバランスとは「仕事」と「家庭や私生活」のバランスをとることでも、ゆとりを持ってほどほどに働くことでもなく、「家庭や私生活」を充実させることにより、人脈・アイデア・スキルを得られ、

結果的に仕事の質と効率が高まる、ワーク・ライフ「シナジー」(相乗効果)の実現であることを教えていただきました。

そして仕事時間は長く仕事の成果は最低クラスという、負のスパイラルに陥っている日本の現状に対し、これからは社会のニーズに合わせた、出生率の向上と女性の継続就業が可能な働き方への見直しが必要だということ。10年後、団塊ジュニアが介護休業を取らざるを得ない時代になる中で、継続して利益を上げられる組織であるために、ワーク・ライフバランスの取れた組織への変革が急務であることをお話いただきました。また「7時以降に残業禁止にした企業に優秀な人材が集まるようになった」という例も聞き、「能率的な働き方とは・・・」と自身や学校現場の働き方について考える機会となりました。



『働き方の見直し』はそれぞれその職場にあった方法を見つけていくことが大切であり、その方法として「スケジュールの共有」「業務の共有」「朝メール」「集中タイム」などを具体的に例示していただきました。これなら自分の職場でもできるかも、やってみたいと思えることがいろいろありました。

今までは頼られることでやりがいを見出していたけれど、今後は自分がいなくても仕事が進められるような助け合える職場環境にしておくことが必要であるというお話は、学校事務職員でいうところの共同実施による連携にも必要なことではないかと感じました。

『働き方の見直し』(右図)により期待できる3つの効果として、

- ① 時間あたりの成果を意識して業務を行うことができるようになる(=タイムマネジメントスキルの向上)。
- ② 成果を上げて定時に帰る時間術が身に付き、生涯通用する働き方を身に付けられる。
- ③ 自己研鑽の時間を持てるようになり、職位にあった時間の使い方が出来る。

そして「ライフ」の時間活用例として「自己研鑽」「感性を磨く」「多様な価値観の醸成」「健康維持」「家庭への参画」などがあることも

聞かせていただき、中でも「睡眠が一番大切」というお話は、普段の自分の生活を大いに反省させられました。

ワーク・ライフバランスに積極的に取り組む事が、今後の豊かな人生に繋がることを教えていただいた研修会となりました。

(文責 吉川 協子)

#### 《働き方の見直し：4つのステップ》

